

日限地藏尊堂と

阿弥陀堂の建築

岡谷 宮坂 正博

昨年11月3日発行の法縁第127号で本堂の建築と彫刻を紹介させていただきました。今回は宮坂兄弟組の忠五郎家(当代は仁一郎)に保管されている日限地藏尊堂の落成式と上棟時と思われる写真を紹



介します。上の写真は、大正14年10月15日落成記念とあります。中央やや右は40代業隆住職、式典を司ったのは棟梁豊治、その左2人目は長田多三男、下から2段目右から3人目は忠五郎。皆さんのおじいさんもいるのではないでしょうか。

下の写真は上棟時の宮坂兄弟組。中央異彩を放つのは豊治、その右は住職、その右の学生服の子供はことによると私の父莊一(当

時7才)かとも思えます。一番右は忠五郎。頭髪が剃り込まれていますが、この時代の土木建築の業界では「なめられてはいけない」と剃りを入れる事があったそうです。

彫刻「兎の毛通し」の鳳凰や虹梁、木の鼻の唐獅子も彫ったばかりという感じがよくわかります。

彫刻は武田熊治苞信晩年の作で堂の横に小屋を造りそこで彫っていたそうです。ちょうど91年が経過し写真に写っている方でご存命の方はいないと思われると思いますので改めて機会を得て調

べてみたいと思います。日限地藏尊堂の前に立って昔に思いを馳せれば、五平せぎの水音に混ざって、鑿と鉋の音がシュー！シュー！と今にも聞こえてきそうです。奇しくも今日は10月15日合掌！！

